中部地区公民館だより

第160号

令和６年６月６日発行

上山市中部地区公民館
上山市十日町４番１１号
TEL　６７３－２５８８
FAX　６７３－０３７９

練習の成果を発揮！　楽しく賑やかにプレー

第12回　令和6年度
中部地区グラウンド・ゴルフ大会

5月27日（月）、生涯学習センターグラウンドで、令和6年度中部地区グラウンド・ゴルフ大会を開催しました。朝から雲行きが怪しく、雨が降る前にと予定時刻よりも少し早めに開始しました。

市グラウンド・ゴルフ協会の佐竹雄吉会長から競技上の注意と初心者への指導をしていただきました。

「優勝目指して頑張るぞ！」と意気込んでいた選手の皆さんでしたが、グラウンドの雑草に玉の方向を変えられ悪戦苦闘しました。ホールポスト周辺では、行ったり来たりを繰り返し、打数が伸びて大笑いする場面もありました。思い通りにいかないながらも、和やかな雰囲気で〝ローカルな大会〟を楽しみました。途中、小雨交じりになりましたが、無事に8ホールを3回まわり大会を終了しました。

結果発表

優勝　菊地廣志さん（東町地区）
2位　太田伸夫さん（上十日町地区）
3位　大澤静子さん（八日町1地区）

おめでとうございます。

高齢者教室（はこべの会）

布川和雄さん

5月のサロン

5月15日（水）、はこべの会のサロンを多目的ホールにて行ないました。

はこべの会会員の布川和雄さんのハーモニカ演奏を聞いたり、ハーモニカにあわせて懐かしい歌を歌ったり、替え歌を歌ったりしました。

同じく、はこべの会会員の中川和子さんが、友人の佐藤喬子さんと日本舞踊を披露してくださいました。

中川和子さんは「夕月おけさ」、佐藤喬子さんは「人生一路」、最後は二人で「笑顔で遠まわり」を踊ってくださいました。

とても楽しい時間をすごすことができました。

（左）佐藤喬子さん（右）中川和子さん

開級式＆学習会①

危機管理係　佐藤さん

5月24日（金）、多目的ホールにてはこべの会開級式と学習会を行いました。

学習会では、「中部地区で起こりえる災害、高齢者が災害に備えておくこと」など中部地区在住の方には、とてもわかりやすい講座でした。

避難に必要な物等は、災害による被害が発生してから準備したのでは間に合いません。日頃からの備えが大事。

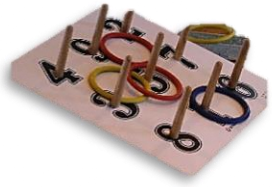
高齢者の方は「自分でできること」「誰かにお願いしなければならないこと」を明確にし、日頃から備えておくことが必要だということを学びました。

フライングディスクと輪投げ大会

参加者募集

日　　時	6月26日（水）　午前9:30開会
場　　所	生涯学習センター　体育館
講　　師	フライングディスク　笹原京子さん
	輪投げ　　佐竹絹子さん
対　　象	中部地区在住の方
募集人数	25人（定員になり次第締切ります）
参 加 料	無料
持 ち 物	屋内シューズ、タオル、飲み物
申込締切	6月19日（水）

健康ポイント対象事業　20P 付与



街歩きウォーキング②　ホタル観賞

参加者募集

健康ポイント対象事業　20p付与

日　　時　6月29日(土)
　　午後6時50分集合
場　　所　中部地区公民館ギャラリー
講　　師　牧野義文さん(西山地区会長)
対　　象　中部地区在住の方及び上山小学校児童と保護者
募集人数　20人程度
参 加 料　無料
持 ち 物　懐中電灯、必要な方は飲み物
そ の 他　散策しやすい服装、履物でおいでください

中学生以下の方は保護者同伴での参加をお願いします

山形ベンチャーズコンサート

市制70周年　歌声サロン

日　　時　7月13日(土)午後1時20分～午後3時
受　　付　午後1時～
場　　所　三友エンジニア体育文化センター・エコーホール
募集定員　先着360人
受付開始　6月17日(月)より、北部・中部・南部の各地区公民館にてチケットを配布します
　　チケットがなくなり次第終了
参 加 料　無料
問 合 せ　北部・中部・南部地区公民館まで

6月の予定

7日(金)　公民館職員合同研修
　　(16:30頃から留守になります)
9日(日)　チャレンジキックベースボール
13日(木)　上山城周辺清掃
14日(金)　キッズオープンデイ会議
18日(火)　はこべの会　一日研修①
19日(水)　はこべの会サロン
26日(水)　フライングディスクと輪投げ大会
29日(土)　街歩きウォーキング②(ホタル観賞)

はこべの会 サロン

モルックやボッチャで運動をしながら
楽しい時間をすごしませんか？

日　　時　6月19日(水)午前10時から
場　　所　中部地区公民館　多目的ホール
参 加 費　300 円
申込締切　6月14日(金)
そ の 他　必要な方は屋内シューズ

6月の百歳体操

6日、13日、20日、27日

地域の宝再発見

NO.９２

藤井松平氏シリーズ３．「松平信将侯」～１０．「飯盛女」（上）

４００年前の立藩頃、城下町開発が始まり、道路整備、下大湯を寛永二（1625）年に開湯、旅人の湯屋利用で旅籠は二日町から下十日町に移ります。湯宿は弥吉湯（八幡屋・昭和館）、玄左湯（会津屋・よね屋）、藤次郎湯（滝沢屋）、小左衛門湯（中村屋）、金右衛門湯（亀屋）が営業を始めて、参勤交代の殿様や羽州街道の旅人が頻繁に通行し、そして寛文十一（1671）年には湯殿山行者が頻繁に往来しはじめ、一夏に一万人から二万人が上山宿に泊まります。旅人の増加で茶屋、薬屋、酒屋、油屋が流行り、移送の伝馬（継馬）制で宿駅は賑わいます。

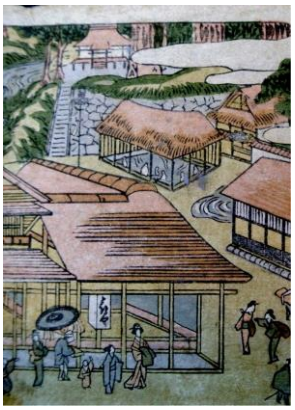
さて世の進展に伴う疲弊と賑わいが背中合わせにある羽州城下町は、他領からのインバウンド誘引で殖産興業を図ろうと企画します。それが、旅籠屋の接待でした。温泉旅籠の売り出しと飯盛女のおもてなしです。私娼といわれる女性は以前からいたのでしょうが、公娼の抱え置き「新規之願」を役所に願い出たのです。飯盛女には長い歴史がありますが、江戸開府以降は慶長六（1601）年に品川宿に伝馬制設置に伴い地方街道の宿場や羽州街道の上山宿にも及びました。

飯盛旅籠の出現は幕府にとって農村人口の流出減少と、都市商人の蓄財というアンバランスの一端を示す問題でもあり、簡単には処しかねた問題でした。元和二（1616）年に人身売買禁止を布き、年季奉公と称する場合でも三ヶ年と定めています。しかし、年季は十年（寛永十 1633 年）に延長されていきます。農村の貧困で飯盛女の数は増え、街道沿いの農村宿場は風紀が紊乱し社会問題となります。飯盛女は旅籠屋一軒に二人までと制限（享保三 1718 年）されますが、明和・安永年間（1770 年頃）には品川宿（東海道）に五百人、板橋（中山道）、千住宿（日光・奥州街道）に各百五十人、内藤新宿（甲州街道）に百五十人の飯盛女の数が記録されています。

話を上山宿に戻します。上山温泉宿場で藩庁役所に〝新規願い〟「以書付奉願御事（書状にてのお願い）」を十日町旅籠主二十八人が連名で差し出したのが元文二（1736）年十一月のことでした。先に「見る目原一揆」を取り上げましたが、江戸は商人の財力は元禄文化で隆盛を極めましたが、農村は疲弊、口減らしと親の暮らし向きを考えて娘達が年季奉公と称して人身売買が横行しました。「飯盛女抱置願」（信将代、元文二 1736 年）には、旅人も少なくなり旅籠屋渡世も困窮、飯盛女を置けば宿場は繁栄する、湯治客から湯銭（入湯税）を十文とりーヶ月百文の冥加銭を献上する、但し夏場は湯殿山行者の宿泊なので二ヶ月の冥加銭は納めない、また町内客からは湯銭を取らない、酒の相手には出さない、宗門改など適切に行ってお上には迷惑をかけないという内容でした。

このようにして、宿場繁栄、財政改善の一環として飯盛女はなくてはならない働き手となったのですが、不明なことが多いのも事実です。しかし、上山宿に貴重な史料が残されています。この約百年後（文政九年）の「飯盛奉公人請状」に半郷村の喜三郎が越後屋に宛てた文書があり、奉公は六ヶ年、給金六両、内一両は衣装代で差し引き、年季明ければ身代金帳消し、と記してあります。飯盛女の出身地は左沢村とあります（鈴木啓蔵氏所蔵文書）。蔵王高湯の飯盛女は上山出身者がいましたが、上山旅籠の飯盛女は当町以外から雇用だったことがはっきりする請状です。

その後、飯盛女は享和元（1802）年に公認取り消しになり、後に復活します。その経緯を次回にまとめてみます。



狩野派・皆川義山「湯殿山道中上ノ山観音前」版画

丸越越後屋蔵「飯盛奉公人請状」

※参考文献：「上山繁昌記」（梅津吉造著）、「上山の湯と宿」（湯上和気彦著）、「上山市史」、古文書その他を参照しました。

水岸山観音寺　住職　　鎌上　宏